

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
広報部：五代・仲田・高尾
加茂・西脇・橋口
事務局：奥田・岡崎

力作に期待
KAGUKEN
No.87



宮後会長に瑞宝単光章

平成23年度春の叙勲において、宮後OIS会長がめでたく「瑞宝単光章」を受章されました。

「瑞宝章」は「公務等に永年にわたり従事し、成績を挙げた人」に与えられる勲章で、一般的には行政側の人が受ける章ですが、別稿(2ページ)で受章者本人が書いておられるとおり、「パース技能の指導や検定に関し永年にわたり努力された賜」と思われます。

会長が受章されたことは、本人はもとより私たち会員にとっても名誉なこと、たいへん誇らしく思います。

震災はもちろんのこと、政治経済、何一つ明るい話題のない中で、ぱっと咲いた一輪の花、宮後会長、おめでとうございませう。

叶知利書

動きかけたKAGUKEN～無垢材の家具作りに挑戦



KAGUKEN(家具研究会)としては、リートフェルトのレッド&ブルーの完全コピー作品の製作につづく第2回目の企画で、今回は無垢材を使っての家具製作です。

作りたい家具のデザインから設計図を起こし、家具工場へ何度か通っての作業、最終的には本年末の「事遊展」で発表という、全10回を超える長丁場です。

初回は6月26日(日)、午前11時に近鉄・桜井駅前集合したクラフトマンたちは、まず三輪そうめん山本本店の広い和室で名物の“冷やそうめんと柿の葉寿司”、暑いときには最高の食事で腹ごしらえをして目的の家具工場・奈良屋へ向かい、休日返上で準備して下さった金田社長と3人の社員の方々に迎えられました。

そこで樹種名、産地、色調、性質、用途、参考価格まで書いた、奈良屋特製の11ページにわたる資料をもとに説明を受け、実物の材料にも触れることができました。

家具製造のための道具や機械類の使い方の説明も受けましたが、もちろん、これらの機械を使う作業には危険が伴うため、手伝ってもらうかお任せしなければ、われわれ素人には無理なことです。

奈良屋は、KAGUKEN部長の今西常任理事が30年以上も取引している協力工場、今西さんの信用があつてこそだと感謝しています。これから何回かにわたって指導して下さる奈良屋の方たちは、本当に木が好きで家具を作るのが大好きな方々だという印象を強く感じました。

良い家具ができそうな予感がします。

(記・千田 俊治)

第51回 検定試験報告

第51回インテリア設計士資格検定試験は2011年7月9日(土)・10日(日)に行われた。全国で1・2級あわせて777人が受験し、507人が合格した。そのうちOISでは50人の受験で25人の合格であった。

合格登録者に対する証書伝達式は9月17日(土)“大阪市立住まい情報センター”で行われる。

合格者リスト

<1級>
西脇 利彦
廣田 敬一(昇級)

<2級>
一般
古賀 貴美子
山本 学
大阪樟蔭女子大学
岡本 梨沙
栗田 恵子
西端 祐衣

西村 典子
山村 麻友
宝塚大学
伊藤 紅
松永 紀香
京都女子大学
望田 千紜
羽衣国際大学
木本 佳那
杉田 亮
早川 葵
藤並 杏里沙

宮楠 千晶
大阪芸術大学短期大学部
堅田 記子
田尻 泰佳
奈須 野菜樹
四天王寺大学短期大学部
澤井 美希
竹本 美穂
中嶋 孝
中央工学校 O S A K A
長谷川 貴一
山田 奈津記

叙勲 拝謁 宮後 浩



空間を主としたデザインに携わって43年、美術から建築に入ったせいでしょうか、イメージを形にする「パース」というものの必要性をすぐに知ることができ、再勉強。40年前に独立をしたのはいいものの、26歳の設計勉強中の若造が、デザインの仕事が取れるわけでもなく、パースという仕事をする事によって生計が保てました。30歳の半ばまでは一生懸命パースの勉強をしたように

思います。

もうかれこれ30年近くになるでしょうか、建築パースの「技能検定試験」が東京ではあると聞き、大阪の職業能力開発協会に問い合わせ、大阪でもぜひ開いてほしいと自ら名乗り出て、大阪での検定試験を実施にこぎつきました。

その後、社員はもとより、生徒さんにも技能士検定を勧めてきましたが、おかげさまで現在までに大阪府知事表彰、厚生労働大臣表彰をいただき、今回天皇陛下からの叙勲につながったわけですが、建築パース技能の指導ならびに検定といった、限られた職種での叙勲はこの分野で働く人たちにとっても励みになるものと感慨深く思います。

前例がないというのも当然で、専門職種としては、数十年前には存在さえありませんでした。

建築、インテリアといった業務に携わっているのは、形のあるものを販売するわけではなく、施主と一緒に創り出していくものであり、コミュニケーションが最も重要とされる職種だと思われま

す。ここでコミュニケーションツールとして使われるパースの意味は非常に大きいものです。「パース」のことばの意味は「建築透視図」ですが、最近僕はそれは完成予想図そのものだけでなく、デザインという分野では、空間そのものを頭の中で把握して表現する能力こそがパースではないかと考えています。

技能、つまり作品そのものではなくそれを表現する能力が重要なのです。

叙勲に関しての内容は、瑞宝単光章、「国、地方行政において、永年建築透視図技能の指導ならびに検定に寄与した」ということにより、職業能力開発協会から労働省へ推薦いた

だいたようで、瑞宝章は、通常公務の方に与えられるものですが、僕の場合は、そのような公的なことからだろうと思っています。

さて叙勲という栄誉の内示があったのは公式発表の約1か月ほど前、そして正式には6月24日に伝達式が大阪府公館(府庁の西隣)であり、橋下知事から24名の労働省関連の受勲者一人づつに「おめでとうございます」の言葉と同時に勲記、勲章をいただきました。

そして、7月5日皇居内「春秋の間」において、天皇陛下拝謁、ちょうど3メートルくらいの距離でしょうか、まじかにお顔を見ることができました。

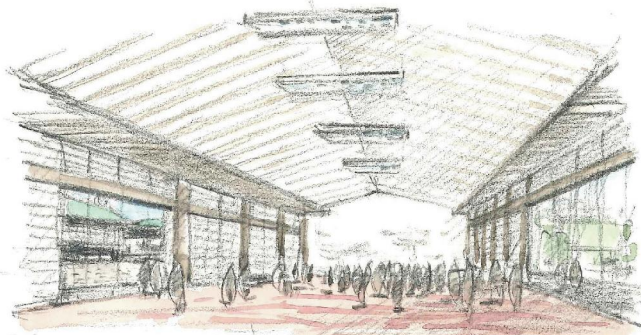
もちろん、皇居内に入るのは生まれてはじめて、ほとんどの方が入ることがないと思いますが、「春秋の間」はともかく広い! 180坪と教えていただきましたが、体育館を想像していただけたらいいと思います。もちろん、空間としてはとても上質な仕上げが施されています。

正面の壁には琵琶湖の春霞の松、反対側の壁には秋の霧の北山杉の絵を織り込んだクロスが張ってあるところから「春秋の間」と呼ばれるとか(どちらも針葉樹で季節感はないように思うのですが…)。

両側面は、とても大きな障子がはまっており、これを開くと両側に幅4メートルくらいの広縁、一方は、年賀の一般参賀の、もう一方には広大な中庭が広がります。

もう一度ゆっくり見学してみたいものだと思いますが、ちょっと無理な話のようです。

「春秋の間」では撮影禁止なのでお見せできませんが、帰ってから記憶をたどってスケッチを描いてみました、右側が一般参賀の広縁、左側が中庭です、向こうの方に正殿と豊明殿が見えます。実際の形はだいぶ違うと思いますが、イメージとしては、これに近いと思います。



春秋の間

ライブハウスとデザイン NO-MUSIC NO-LIFE 園田 寛明

「NO-MUSIC NO-LIFE」、この言葉をよく耳にする。TVでもCMでもよく流れていた。

学生の頃、ちょっとした縁でバンドマンと出会った。ところが会ってすぐにバンドが解散、そしてメンバーを集め新しいバンドを結成という目まぐるしい展開。そこから毎回ライブハウスへ遊びに行く



ように…。

何気ない写真を一枚加工してジャケットポイものを作ったら喜ばれたのが始まりで、CDジャケットやフライヤー・グッズなどいろんなものをデザインするようになった。当然バンドマンの知り合いも増えていった。

いろんなバンドが出来ては消えるものもある。夢を求めアメリカへ練習に行く奴、新しいものを求め頑張っている奴、現実を見た奴、いろんなものを見せてもらった、今も見ているけど。だからそんな人たちが好きだ。それだけではなく、いろんな人に出会うことができた場所。その出会いは今も続いている。だから今を大事にしたいと思うように。音楽に出会い、い

ろんなものを見たが、今も感じることはある。だから今もなおライブハウスへ遊びに行くし、友達と子供のように暴れている…、恥ずかしいですが。

本当に今の自分にとっては、なくてはならない言葉だ。





プールサイドビアパーティー

65歳以上の年配者で構成されている「かぶだちの会(筒井弘次会長以下30人)」が企画した「かぶだちの会のつどい」が暑さのピークを迎える7月27日(水)に千里阪急ホテルのプールサイドビアガーデンで行われた。

参加したのは「かぶだちの会」のメンバーを中心に老若男女27人、呼びかけに応じてアロハ姿の人もちらほら。水曜日という週半ばだからそこそこの人出かなと高をくくって行ってみるとプールサイドは人だらけ、凄い盛況である。

ホテルの「①アジアン&エスニック料理40種食べ放題②ソフトドリンクも充実の25種類飲み放題③時間制限なし」というキャッチフレーズが功を奏しているのだろう。加えて「サンバナイト&ダンスパフォーマンス」とあるからなおさらである。

屋外だから心配された天候は申し分なく、かぶだちの大先輩達の皆さんと一緒に和気あいあい、折から繰り広げられるサンバナイトのダンスに大盛り上がり、夏の夕方を涼やかに楽しむことができ、思い出に残るとても良いひと時を過ごすことができました。

これからもこういう企画には率先して参加したいと思います。



最後になりましたが幹事の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(記・藤原 長彦)



Designer's Bar OIS

久しぶりのDesigner's Bar

6月28日の火曜日に開催されました第9回 Designer's Barに参加させていただきました。今回はいつものコラムデザインセンターでしたので、トチカンのあまりよくない私でも迷うことなく(少し遅れてしまいましたが)辿り着けました。

結構な量のお料理、カワキモノから店屋物の持ち込みはもちろん、その場で調理された手料理をふるまっていたりするので、今回も美味しくいただきました。いつもながらすごいんです！

久しく参加していない間に変わったこととして、ただの飲み会・・・という感じではなく、毎回イベントも行われているようでした。

今回は、渡辺さんのミニトーク「My Way・・・もう一人のパースマン」が企画されていました。ミニトークといいながらも、とても盛りだくさんで、時間内に収まりきれなかったのが残念でした。

次回にまたパース講座(*)があるので、そこでもお話が聞けたらと思いました。

そして、私にとっては久しぶりの参加となったのですが、たくさんの方との再会、そして新しい出会いもあり、久しぶりにも関わらずとても楽しく過ごさせていただきました。

普段ではなかなかお会いすることのないような先輩たちも参加されています(一応青年部主催なのですが・・・)。

皆さんも、機会があれば是非参加していただけたらと思います。(記・栗山 保幸)



渡辺 廣史さん



第2回 ちよっと MANA-BOZE OIS

心を打つパース。

8月に入り、節電の夏真っ盛りの4日(木)の午後6時半からコラムデザインセンターで開催された、第2回【ちよっとMANA-BOZE!】に、主催側である青年部として参加しました。

講師はOIS会員で、竹中工務店で40年パース一筋に過ごしてこられた渡辺廣史さん、テーマは『訴求力があり合理的なパース制作を皆で考えよう』です。

講習会では具体的な作品例を元に、設計者の要望に対し、制限時間内に「理に叶う根拠」を見つけ出すテクニックを説明して頂きました。訴求力のあるパースにするためには、まず多様な知識を獲得し、感性を磨き、絵心を身につける。そして、調整力・調査力・発想力・表現力・構成力を養う。これらの能力を身につけるため、いろいろ



なことに挑戦してみる。

また、町を歩き、印象・現象・感じたことなどを心の引き出しに留めておく。そこで得た多くの記憶が、パース表現の糧になっていくという内容でした。

私も現在パースのスクールに通っており、手描きの難しさ・奥深さ・楽しさを学んでいます。相手の要望をしっかりと聞き、表現できるように努力を続けます。ベテランの技術者から、いろいろと習得できることは非常に価値があると感じました。

(記・西脇 利彦)

*すぐ下の「心を打つパース。」参照
8月4日(木)に「ちよっとMANA-BOZE」として実施されました。

買ってください。



CanonファミリーコピーFC200S 家庭用モノクロA4コピー機

発売は2000年、当時の価格は7万円でした。年数は経っていますが、家庭用で使用頻度は少なく、大切に使用された機械、トナーも残っており、即・使用可能です。

トナーカートリッジは純正・リサイクルともに現在でも販売されており、安心して使用することができます。

不要になりましたが、処分するのもしつくないので、どなたか買っていただけないでしょうか。

ご希望の方に着払いで送らせていただきますので、OIS事務局までお申し出ください。



一度は見ておきたい

猪名川町の文化遺産

朝日 勝彦

隣接する三田市などと並び、近年はベッドタウンとして発展しています。

車を役場の駐車場へ廻すとある建物が目に飛び込んできました。

藁葺き急勾配屋根の豪壮な建築物、一見して古くからの豪農百姓屋と想像できます。

役場での所用を終えてから一目散に近くに走り寄ってみました。やはり文化遺産としての指定がされていますが、

随時、無料で内部を見学可能な案内が…。

おもむろに敷地内に歩を進め用意されている解説書を読んでもと、昭和初期に地元の美術商人である『富田氏』が江戸時代の豪農屋敷を模して自邸を建てられた、と書かれています。

全国各地からの良質な高級木材を骨組みか

ら仕上げ、化粧材にまで使用されています。その他にも高架水槽を設置しての水洗トイレ、給水管設備、床下暖房装置、氷室(冷蔵庫)など、当時では珍しい近代設備の数々も見学できました。

現在は富田氏の遺族の方から猪名川町が寄進を受け『静思館』と命名されています。

私は、この静かな純和風空間に暫く、仕事中を忘れ身を置いていました。

近年の居住空間、インテリア演出に足りないものを現代人に示唆している感覚を憶えながらその日は現地を後にしました……。

インテリアを勉強中の若い人たちをはじめとし、第一線で実務をされている方々にも、一度は見て頂きたい文化遺産にふさわしい建築物でした。

<参考>

所在地：兵庫県猪名川町上野字町廻り22
電話：072-766-0013
開館時間：午前9時30分～午後4時30分
休館日：月曜日・祝日、12月29日～1月3日

先日、自宅を新築されるSさんと設計打ち合わせを終え、後日、現地確認と役場調査のため、早朝に事務所を出発し、新緑が眩しい山間部ロードを車で走ること大阪から約2時間、兵庫県は川辺群猪名川町の役場に到着しました。

猪名川町での仕事は初めての経験ですが、

写真はホームページから

雑感

車いすと上下足分離 瀬部 明

母が昨年病に倒れ、約9か月の入院の後、今年の1月末に退院し在宅療養をしております。昨今はスムーズな在宅シフトに向けて、入院中に病院スタッフが家まで来てくれてベッドの配置であるとか、出入りの仕方などをいろいろとアドバイスしてくれますが、密かに最も頭を悩ませた点は、1台の車いすで家の内も外も通ることでした。

家に入る時には靴を脱ぐという「上下足分離」の生活をする日本では「人の心を土足で踏みしめる」という言葉があるほどで、下足のまま室内に上がるなどあり得ない習

慣となっています。

わが家も当初は車いすの乗り換えを考えましたが、半身不随の要介護5の人間を狭い玄関スペースで乗せかえるなど到底無理でした。幸いわが家はマンションで段差がほとんどなく、スロープや段差解消機などを設置することもなく1台の車いすで出入りをするのが思っていた以上に簡単にできました。心理的抵抗がなかった訳ではありませんが…。

母は週3回デイサービスを利用しており、特に帰宅時には玄関マットで車輪を拭き、



さらにモップで床を拭くことで清潔保持に努めていますが、なかなか大変な作業です。

上下足分離と車いす使用環境をうまく整合させるインテリアの提案、よいお知恵のある方おられませんか？

八幡神の総本宮・宇佐神宮 五代 晋一



先日、大分県宇佐市に出張で行きました。少し時間があつたので、神輿の発祥の地であると聞いていた宇佐神宮まで足を延ばしてきました。そこは全国に4万社ある八幡神の総本宮でもあります。

国宝の本殿は切妻造・平入りの建物が、仏教の双堂のように前後に2棟並べて建造された八幡造りです。

建物の中心に屋根の谷があり、雨仕舞のこと考えれば、技術の高さを感じます。

短い時間でしたが、広い境内の幽玄さもあり神聖な空気に包まれてる事ができました。

今回は出張のついでではなく、じっくりと堪能しに訪れたいものです。

2011・これからの予定

★印は会員参加の催しで、KAGUKEN以外の案内は追って送付します。証書伝達式

- 9月17日(土) 於・大阪市立住まい情報センター
- ★KAGUKEN 9月4・18日/10月2・16・30日/11月13・27日
- ★東寺見学会 10月29日(土)
- ★第10回Designer's Bar 10月1日(土)
- ★陶芸教室&アウトドアパーティー 10月23日(日) 於・丹波立杭「丹文窯」
- ★手づくりサロン「篆刻」 11月下旬ごろ
- ★事遊展(会員作品展) 11月下旬ごろ
- ★忘年パーティー 11月下旬～12月初旬

LIVING & DESIGN すまいのリノベーション

2011.9.14(水)～17(土) インテックス大阪2号館

この展示会に会員の宮本さんが写真のような椅子を出品されます。この椅子は「カーボンチェア」といい、1枚のカーボンシートで構成された「シート状椅子構造体」として特許出願中です。



LIVING & DESIGNの詳細は www.living-and-design.com で